

日本政府、グローバルファンドに対する 3 億 1300 万米ドルの支援を確保

2017 年 3 月 27 日

東京 — グローバルファンドは、日本の国会において承認された 2017 年度予算の中で、2016 年度第 3 次補正予算とあわせ、グローバルファンドへの拠出金総額 3 億 1,300 万米ドルが承認されたことを歓迎します。

予算成立を受け、岸田文雄外務大臣は次のように述べています。「グローバルファンドの「生みの親」である我が国は常にグローバルファンドの果たす役割を重視してきました。今回の拠出の実現により、我が国が「誰一人取り残さない」という原則の下、国際保健課題対応に更に貢献していくとの決意を改めて強調することができたものと信じています。」

日本政府は G7 伊勢志摩サミット直前の 2016 年 5 月に、グローバルファンドの第 5 次増資期間に向け、新たに当面 8 億米ドルを拠出することを発表しました。グローバルファンドは、この拠出表明額は前回のプレッジ額と比べ日本円ベースで 46% の増加で、ドナー国の中で第 4 次増資期間と比べ最大の増加率であり、日本国民に対して敬意を表します。

日本の拠出金増額に対し、グローバルファンドのマーク・ダイブル事務局長はこう述べています。「グローバルファンドに対する日本の確固たる支援は、国際保健分野における日本のリーダーシップを明確に示しており、大いに称賛されるべきことです」

2002 年のグローバルファンド設立以来、ファンドを通じた資金は、これまでに 2,000 万人を超える人々の命が救ってきました。

グローバルファンド日本委員会 議員タスクフォースの代表幹事である逢沢一郎衆議院議員は次のように述べています。「三大感染症との闘いは政治的な立場や国境を超えて取り組むべき課題です。厳しい財政状況の中ではありますが、今回の拠出を弾みにして日本がこれからもリーダーシップを発揮できるよう、われわれ議員タスクフォースも取り組んでいく所存です」

日本はグローバルファンド第 5 位のドナー国であると同時に、これまでも国際保健分野において強力なリーダーシップを発揮してきました。2000 年の G8 九州・沖縄サミットにおいて感染症対策を国際的な主要課題と位置付けたことが、2002 年のグローバルファンド設立のきっかけとなりました。

2015年12月には、東京で第5次増資準備会合が開催されました。国際保健分野の主要関係者が一堂に会し、エイズ・結核・マラリアの三大感染症の流行の終息、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現と、すべての人々に健康を守るための強靱（レジリエント）で持続可能なシステムの構築・強化のために必要な資金について議論を交わしました。

#####

グローバルファンドは、エイズ・結核・マラリアの三大感染症の早期終息を目指す21世紀型のパートナーシップです。世界各国の政府、市民社会、民間セクター、感染症に苦しむ人々が手を組み、毎年約40億米ドルの資金を集め、100カ国以上で現場の専門家が実施するプログラムに資金を供与しています。グローバルファンドはさまざまな困難に立ち向かいながら、革新的なアプローチで、政府及び関係機関等パートナーたちとともに感染症に苦しむ人々のために活動しています。

本リリースに関するお問い合わせ先：

Ibon Villelabeitia Jaureguizar

携帯番号：+41 79 292 5426

Eメール：ibon.villelabeitia@theglobalfund.org

グローバルファンドについての情報はこちらから

www.theglobalfund.org

グローバルファンド公式 Twitter：<http://twitter.com/globalfund>

グローバルファンド公式 Facebook：<http://www.facebook.com/theglobalfund>